

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
41

2015 文月・葉月



教区活動の充実に向けて
団結し、助け合える
関係づくり

団結し、助け合える関係づくり

金剛禪の布教、ならびに教化育きょういく成活動を、各地域において組織的に展開することは非常に有効かつ効率的である。本年度事業計画・重点実施項目についても、都道府県教区および小教区活動の活性化がうたわれており、本山⇄総代（地区）⇄教区長（都道府県教区）⇄小教区長（小教区）の連携を強化することを推進している。本稿では各地域で実際に取り組まれている活動を紹介する。

九州・沖縄地区（8教区、40小教区）

情報共有と目標の具体化

- ・ 地区内教区の定例会合で情報共有と意思疎通を図る。
- ・ 地区における明確かつ簡素な目標を設定し、各教区で取り組む。
- ・ 総代を最大限活用する。



九州では総代の呼びかけを基に、定期的（年3～4回）に九州各県の教区長による合同会議が開催され、本山からの情報共有と各教区における状況報告など、活発な意見交換が行われている。九州では教区制以前から、各県の代表者が定期的に集まり、その連携が強化されていたという。

「元は当時の九州別派問題に、全九州の道院が団結して立ち向かっていこう、というのが集まりの発端でした」と話すのは九州地区をまとめ

る久保田利幸総代。「やはり、目に見える分かりやすい目的があると、団結もしやすいですね」

つまりは問題や課題が具体化されればされるほど、解決に向けての方向性や道院長の意識が定まりやすいということ、現在も合同会議ではできるだけシンプルな目標設定を心掛けています。

「集まる規模も大きいですし、各県教区それぞれ事情は違うでしょうから、目標を明確にしたあとは、やり方はお任せしています」

なお、現在の目標は「教区行事を年に一回必ず行おう」とのことで、昨年度は1教区を除いた九州全ての県で、教区研修会か公認教区講習会が実施された。「今年度は九州パーフェクトと、沖縄県教区の巻き込みが目標です」

「本山教区長会議に出席しても、当日全てを理解するのは難しいです。あとからでも集まって、不明な部分や疑問点を解消するとともに、本山の提示される方針を現場の状況に合わせて、かみ砕いて分かりやすく設定し直すのがこの合同会議であり、総代の役目です。もちろん、現場から上がった意見は本山（総代会）へフィードバックしています」

「教区行事といっても何をしたらいいか分からない」などの声が上がったときは、総代が進んで各教区へ足を運び、アドバイスするほか、導師や講師を務められているのと。総代というのは門信徒の総代表。何でも手伝うし、何でも相談してほしい。共に解決を図り、盛り上げていきましょう、といつも言っています」

三重県教区(6小教区、38道院)

やるべきことをやる、やれることをやる

- ・金剛禪布教の要である道院長育成を教区事業とする。
- ・定期的に教区研修会を開催して、道院長の資質向上を図る。
- ・教区会計に負担がないように工夫。

「今の世の中、大人も子供も絶対に宗教教育が必要なんです。だからこそ、道院長がもっと勉強しないとイケない。私も含めて、ね(笑)」
おどけながらも三重県教区の中山文夫^{なかやまふみお}教区長は熱く語られる。

少年部教化育成委員会の委員長も務める中山教区長は、とりわけ現代の子供たちこそ宗教心や道徳心が必要と考えており、その必要性を常日頃から教区内の道院長にも投げかけている。「例えば保護者に対して、〃宗教とは〃金剛禪とは〃をもっと堂々と、自信を持って、そして分かりやすく説明できる力が、道院長には求められていると思うのです」

現在三重県教区で取り組まれている重点項目の一つに、「〃道院長心得〃を道院長に引き上げる」が掲げられている。「門信徒を育てるには、道院長自身が努力しないといけません」。道院長育成事業として、定期的な教区研修会を実施(年2回)する

ことで、道院長条件の一つである僧階補任の一助としている。

「僧階補任が目的ではなく、あくまで道院長を育てるという事業です。あつてはならないことですが、法話を積極的にされていない道院があると聞きます。それでは道院といえないですよ。僧階講義に限らず多岐にわたる内容で、法話技術の向上に役立つものも取り入れていきたい。ですから道院長心得でない方

も、『勉強になるから』と受けに来られていますよ」

布教の原動力は道院長であり、組織の足腰であるという中山教区長。道院長への要求も自然と強いものとなる。「当たり前のことをやろう、と言っているだけです。道院長としての条件を満たすことや道院会計報告を期日までに本山へ提出すること、礼拝施設を整えること、やらなければいけないことはやりましょう!と声をかけ合っています。そして、やるべきことをやってから、新しい試みやいろんな要求を本山に提案しましょうよ、と。おかげさまで、道院長は理解してくれていますね。私に言いたいことは山ほどあると思うんですけど(笑)」

三重県教区には少法師が4名おり、その数は全国においても多いといえる。公認教区講習会は本山からの講師派遣が必須(派遣費用は教区が負担)であるが、教区研修会であれば少法師がいれば講師を務められる。講師陣の厚い三重県教区では、本山講師を招へいせずとも僧階講義が実施できるため、費用面でも負担なく研修会が実施できる。「会場も、それなりの施設を借りるとお金がかかります。だから専有道場で、持ち回りでやろうよ、と」

教区行事をするにあたって、予算組みに頭を悩ませる教区もある中、三重県教区においては決して無理をせず「やれる範囲でやる」が徹底されている様子。「だってそのための専有道場じゃないですか。道院が原点であるはず。それに、よその道院の人たちに来てもらえれば、専有道場の必要性やよさも理解してもらえます。一石二鳥です」

なお、本年度より教区講師・教区講師補制を施行したことにより、少法師が在籍されない教区においても、教区講師補が講師を務めることになった。各教区においても積極的な開催をぜひ検討いただきたい。



愛媛南予小教区(8道院)

強制や義務ではない、「楽しいからやる」

- ・小教区のチームワークを重要視。
- ・新しいチャレンジをいとわない。
- ・地域に根ざした活動を積極的に展開することで布教のきつかけとする。

愛媛南予小教区も、小教区制以前から「南予連合」という名称で古くから結束の固い地域である。

合同練習会や合宿も定期的に開催され、道院長同士の仲がよいために、自然に各道院の幹部同士も交流が深められ、互いの切磋琢磨で道院が増えていったとのこと。

愛媛南予小教区の母体ともいえる南予連合では初期のころ、代表責任者の任期が1年と設定され、再任を認めていない。そのため特定の道院長に権威や責任が集中・継続されることがなく、また退任後はどんなに古参で、技量見識が高くとも、一道院長として連合を盛り立てるほか、後任がどんなに若手で未熟であっても、全体でサポートする、という風土が根づいているという。連合内の約束事は「好きなようにやればいい。失敗しても怒らない」とのことで、それは愛媛南予小教区にも受け継がれている。

「何かしても絶対フォローしてもらえるんです。だから自信を持って新しいチャレンジができる」と話すのは、溜池透奥太小教区長。今年度より小教区長となった38歳の道院長である。南予連合時代からの定例合同合宿も、プログラムに僧階講義を取り入れ小教区研修会として実施されている。合宿先の沖縄県で開催されたこともあり、その際は沖縄県教区の拳士も招いて行われた。「新しい試みをするというんな制約もあるでしょうが、楽しそうだったらやってみよう、という感じです」。

昨今は他法人の行事で道院長のスケジュール負担が多い中、更に小教区行事が開催されることに負担の声がないか問い合わせたところ、「みんな少林寺拳法が好きですからね！」と力強い返事。

近年の新しい試みとして、5万人が集まる地域イベント「宇和れんげまつり」に、小教区として参加して

いる。「金剛禅を部外の方に知ってもらいたい」との思いから始まったそう、ステージでの演武、バザーの出店、そしてゴミ拾いを実施している。ユニークなのがゴミ拾いの方法で、道衣姿の少年拳士たちが、それぞれ大きなゴミ袋を持ち、れんげ畑で思い思いにピクニックシートを広げる家族連れを回り、ごみを集めていくという。「ゴミ拾いじゃなくてゴミ集めですね。受け身じゃなくて攻めるんです(笑)」

一般のイベント会場では、安全管理の意味からもゴミ箱が一所に集約されることが多い。参観者はそこまでゴミを持っていかなければならず、不埒な者によるポイ捨てもあとを絶

たなかったそうだ。そこにかわいい豆拳士たちがわざわざゴミを回収に来るものだから、参観者や主催から大好評で、少林寺拳法の知名度・好感度が抜群に向上したという。

「1年目は『あら、空手?』と聞かれていたんですが、2年目からは『少林寺拳法さん! 今年もありがとう!』と言ってもらえるようになりました」。イベントでは小教区内全ての道院連絡先を記したチラシも配布しており、定期的に入門問い合わせもあるという。

「喜ばれるとやはり嬉しいのか、子供たちも喜々としてゴミ集めしています。どちらも嬉しい。理想のカチでしょう?」





開祖語録 ダイジェスト

1976年
第3次指導者講習会

日本民族の幸福と平和のために果たさなければならぬ少林寺拳法の使命は重大ですが、全体の団結の中で運動体としての少林寺拳法をこころで発展させ支えてきた原動力は、一にも二にも、半ばは自分の幸せ、半ばは他の人、他民族の幸せも願うという、そういう理念が基となつて、団結し行動してきた結果である。やればやるほど喜びと誇りを持てる。体育のため、スポーツのため、あるいは護身術のために少林寺拳法を始めたのではないのです。本当の幸せ、豊かさは、人との勝ち負けや、金では買えない。人間として幸せに生きていく、自分の生きていくことに、自分自身で意義を見つけて、そ

団結と行動の火を絶やすな

うして人生を豊かに生きていく。そのための少林寺拳法である。他の武術や競技などでは、他を敵としか見ることができないのに対して、我々は、横のつながりはあくまでも友達であり、先輩、後輩であり、互いに助け合うような関係、そういう横の組織にしたのです。将来これを更に発展させるためには、この団結と行動の火を絶やすことなくかきたる必要がある。その火を燃やすために、君たちをこうやって集めて、私の強烈なエネルギー

自己評価では「非常によい」つもりでも、他人から見るとそうはいえないというように、自分の「つもり」と「他人の目」との間のズレが生じてしまいがちです。それを正すことは、一つの修行ではないでしょうか。一歩一歩努力して修行を続けていくかぎり、少しずつ向上し続けていることもまた事実です。「いつでも己を磨く」を常に言い聞かせ精進いたしましょう。

各道院や支部やその連合体が、単なる武道団体としての域を越えて地域や職場、学校などで互助活動、奉仕活動などに生き生きと取り組む。そうした行動の芽を育て、団結の輪を広げて一つの巨大な流れとする。これこそが今、少林寺拳法の指導者にとって緊急かつ最大の課題です。

ふだん着の 金剛禅

宗務局長 中川 英昭

いつでも己を磨く

「苦しみは終始やつてくる。どこでもあるからいつでも自己は磨ける」と言った人がいました。苦しきも心の持ち方で決まってくると思います。

しかし、手前勝手な欲望である煩惱にまつわりつかれて安易な方へと流されがちになってしまい、なかなか変われない自分が嫌になって、修行を投げ出したくなることもありま

す。うぬぼれでない自信に至る道は

はるかに遠いと思います。

「違いを寛容し、異質を認める」といったことがあります。自己を磨くうえで、自分の考えの枠組み(観点)を一旦脇に置いて、自分と異なる枠組みを持つ相手の発言を理解しようとすることは大切なことです。そうすることで、相手が見えるようになり、相手の話が「分かる」ようになり、自分自身が見えなかった所も見えるようになります。

「苦しみは終始やつてくる。どこでもあるからいつでも自己は磨ける」と言った人がいました。苦しきも心の持ち方で決まってくると思います。

仏滅って仏教じゃないの？ 宗教習俗



私の住む富山県黒部市に、新幹線がやってきました。東京から長野までの長野新幹線が、金沢まで延びて北陸新幹線の開業となったのです。最寄りの黒部宇奈月温泉駅から東京まで乗り換えなし、2時間20分ほどで行くことができます。しかし、このような最先端の科学技術を駆使した土木工事でさえ、起工式では鉄入れや玉串奉奠といった工事の安全を祈願する神事が行われます。

多くの日本人は、このような地鎮祭をはじめ、初詣で、七五三、神前結婚式、墓参りなどを宗教的行為とはあまり考えないようです。しかし、初詣では神社や仏閣に参拝し、神仏に一年の幸せなどを祈願します。神前結婚式では神の前で結婚を誓います。墓参りは祖先への供養です。そこには神仏、祖霊などの存在、また死後の世界などが想定されていて、人間を超えた力の存在を暗黙のうちに認めています。その意味で「宗教性を帯びた行為」であり、これらを宗教習俗といっています。生活の中に深く溶け込み、人々によってあまり宗教という意識もなく、伝えられてきた慣習です。

その主なものとして、年中行事と人生儀礼があります。年中行事とは、一年の季節の変化の中で、その社会の儀礼として行われるもので、日本でいえば、初詣で、節分、節句、七夕、大祓いなどです。また人生儀礼は誕生、成人、結婚、葬儀などの人生の重要な節目に行われます。

これらの宗教習俗には、神道、仏教、道教、儒教、そして最近ではクリスマスのようにキリスト教まで、さまざまな宗教の要素が流れ込んでいます。そのため、六曜の仏滅、友引などのように仏教とは一切関係がないのに、仏事と関係があるように思われているものもあるのです。このような複数の宗教的伝統が混ざり合い、時には深く結合するのが日本人の信仰の特徴だといわれています。

開祖はこのような習俗を頭から斥けることはありませんでしたが、「車に交通安全のお守りをぶら下げている者はいないな」とよく言われたように、祈祷や呪術などは強く否定されていました。

金剛禪は死後の安楽や死霊のたたり、神仏の罰や、加持や祈祷による救いを説く教えで

はありません。生きている人間が、拳禪一如の修行を積み、不屈の精神力と金剛身を養成し、まず己を抛り所とするに足る自己を確立し、そして他のために役立つ人間になろうという身心一如、自他共楽の道です。

また、私たちは出家して山に籠って修行するのではなく、社会の中にあって、人々とのつながりの中で生活しながら、自己の変革を目指しています。社会とのつながりを無視した悟りや救いなど、本来ありえないはずです。釈尊の教えを行動原理として、社会の病巣や不正に悲しみと怒りをもって反応し、それぞれの分野で、それぞれの叡智を傾け、それぞれの方法で、周りの人々と手をつなぎながら、平和で豊かな理想社会の実現に立ち向かうことのできる人間を育てることこそが、開祖の願いでした。

社会の中にいる私たちにとって、習俗と全く切り離れた生活はありません。死を考えることで本来の命の本質と向き合えるように、宗教習俗の内容や歴史、意味をよく知ることにより、教えを再確認するきっかけになればと思います。

道



叶わなかった〃思い〃を胸に

八王子陵北道院道院長 片岡 三郎

少林寺拳法に出会ってから40数年が過ぎました。高校3年生も終わろうとするころ、同級生に誘われ、少林寺拳法が何なのかも分からないまま、自分を誘ってくれたという思いに断わることもできず、地元の道院を訪ねたのがきっかけで今日まで続いております。

少林寺拳法を修行する中でその教えに感じるところは多々あったものの、正直なところ技法に惹かれていた自分が変わったのは、指導者講習会を受講のため、初めて本山帰山した21歳のときです。壮観な本堂と開祖に会い、法話をお聞きしました。印象的なのは、「少林寺拳法には雑魚は要らない。社会のリーダーをつくらなければならない」、鶏口となるも牛後となるなこれというものでした。また、開祖の周囲には常に高段者の先生が取り巻き、近づくこともできない状態でした。これは、まずは指導者、道院長にならなければと決意しました。あつという間に過ぎた講習会の帰路、宇高連絡船で自分の時間を取り戻したとき、これからの生き方が見えてきたように思えたのと同時に、少林寺拳法というとても大切なものを自分が持っていることを初めて自覚しました。

大学卒業後、児童厚生員として八王子市に入職。同じ職場の先輩である北島季彦先生（現・日野桜道院道院長）との出会いも重なってアシラム支部道場（当時）に転籍し、行動を共にしました。北島先生の行動力と誰に対しても変わらない包容力に刺激され、夢中で少林寺拳法に仕事にと励みました。先生の理念の根底には少林寺の教えがあり、それを実践することがなければ意味がないという強い思いと、どの子供にも夢があり、その夢を諦めずに持ち続けるために、そばにいる大人として、努力を惜しまない熱意がありました。24時間身体を張った生活の中で、北島先生が体調を崩されたときに、自分が支部長を引き継ぐことになりました。

25歳、道院長資格講習を受けたとき、開祖のおそばに今まででいちばん近づくことができました。開祖から「これからは、何かあれば私に直接言ってきたさい。親道院は私だけだからな」とお声かけをされても、緊張でただ「ハイ」と返事をするのがやっとでした。いっしょにしっかりと自分の言葉で話ができるよう日々努力し、今まで以上に少林寺拳法に励むことを決意し下山しました。しかし、それ

から一年半後、開祖はご逝去されました。

その後、拳士も増え、さまざまな人たちと出会う中、拳士のつながりで、八王子に16畳の古いプレハブの建物と60坪の土地の提供があり、最初の専有道場を持つことができました。八王子北道院の設立です。プレハブの床が抜けないように、ブロックやコンクリートで補強し、照明を付け替え、壁をペンキで塗って明るくし、入り口やトイレには鉄骨で庇を付けました。全て拳士や協力者によるものです。窓のカーテンは妻がミシンを持ち込み縫製したものです。長男の生まれる一週間前でした。この手作りの道場が拳士同志の絆を深め広がり、今日に至っております。いつでも誰でも使える僧伽をベースに、その後道院・支部を次々と開設しました。開祖の遺された教えを、どんな時代にも対応し、社会の中で実践していくこと、その中で開祖のおそばにいたいと感じております。

金剛禪運動の目指すもの、人類の幸せに反する政治や軍事、経済のあり方を変えたいと行動する人づくりによる理想境づくりに、これからの同志とともに生き生きと取り組んでいきたいと思えます。

ダイジェスト

×



志をつなぐ

き た よしのぶ
喜田 良延 77期生
大導師大範士八段

元旦は、水澤春夫高松東道院道院長（故人）と開祖のところへ新年のご挨拶に行き、ご自宅の客間でいろいろなお話を聞かせていただくのが楽しかったです。満州での体験などお話の中で、一貫していたのが、「日本人は砂粒みたいな民族だ。何かあったときにすぐに駆けつけ助け合える、絆で結ばれた同志的な仲間づくりをしたい」ということでした。

同志相親しみ相援け相譲り、賢くて力のある群狼になれ

一匹狼ではだめ、賢く強く人を引く張っていきける群狼になれ、信条で唱和している「同志相親しみ相援け相譲り」が大切です。指導者は武芸者にならないよう、この原点を忘れてはなりません。

少林寺拳法を続けてきて本当に楽しかった。今も楽しんでます。

※プロフィールや開祖の思い出など、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

▼1979年元旦、本山にて



ダイジェスト

×



道院長

vol.26

元気の素

東海加木屋道院
道院長 秋葉 みどり (49歳)

成長を見続け思いを伝えられる喜び、道院長になってよかった

——道院長になってよかったことは何ですか。

大変なこともありますが、日々、「道院長になってよかった」と思っています。教育委員という立場もあり、学校教育の中で「教師」が感じるのである喜びや意義を十分に理解しているつもりですが、道院長は更に長いスパンで拳士それぞれの「人」に関わることができます。その成長過

程を見続けていけることは何よりの喜びです。いつも子供たちには「強くて優しい人になれ！ そんな人になれるように先生も頑張る」と言っています。まだまだ未熟な私ですが、憧れてくれる子供たちの前にしっかり立てる人間であるよう、更に努力していきたいと思います。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



社会に求められる 道院であるために

道院長研修会

2015年度道院長研修会が5月9日の1次を皮切りに、6月中旬の5次にわたって本山にて開催された。本研修会では、現代社会を「宗教が求められている時代」と捉え、今こそ金剛禅の教えが世の中に必要とされる「布教の好機」とし、社会に求められる道院活動のあり方を模索する研修内容となった。

研修会冒頭に、大澤隆代表より現在の社会環境や時代背景の分析と、それに伴う道院活動の可能性についての講話があり、併せて今年度の事業に関する説明があった。その後、道院長それぞれが持たれている問題意識を共有し、皆で解決する場としての班別討議が行われ、「地域に求められる道院活動について」「門信徒増加について」「少年部に関する金剛禅教育について」「後継者の育成について」の4つのグループに分かれ、現状分析や打開策の提案について活発な意見交換が行われた。

翌日の討議発表では、各グループを代表する班が討議内容を発表したあと、発表内容に関



する受講者との質疑応答、および代表からの講話があり、道院長はそれぞれのテーマにおける課題を明確にされ、改めて15年度の各道院の活動方針を確立された様子。また研修会を締めくくる師家講話においても、目まぐるしく変わる社会環境に金剛禅がどのように関わっていくべきかを、部内外の実例を基に明示された。

アンケートには「あと10名門信徒を増やして金剛禅の布教と教化育成に励みます」といった力強い感想が書かれており、道院活動の充実に向けて、全国道院長の意気込みが感じられた。

開祖の遺徳を偲ぶ

開祖忌法要

5月10日、本山の本堂におい

て開祖忌法要が挙行された。宗由貴師家をはじめ名誉委員、道院長・部長、職員ら約530人が参列し、厳かな雰囲気の中で、法要が始まった。

大澤隆代表が導師を務め、献香、教典唱和、表白文奉読が行われ、その後全ての参列者が順に献香を行い、開祖のありし日の姿と開祖の遺徳に思いをはせ、合掌した。

献香後の導師法話では、「愚公山を移す」の故事を引き合いに、「しない先に諦めず、怠らず理想への道を師家とともに更に前進していきましょう。そして本日は開祖への思いを持ち続ける一日にしていきましょう」と参列者に呼びかけられた。

（富田雅志）
先達の遺訓・功績を後世へ

物故指導者顕彰法要

5月10日、本山大雁塔顕彰施設において物故指導者顕彰法要が挙行された。

顕彰施設は、金剛禅の発展にご尽力された物故者の功績を顕彰するための施設であり、ご遺族や門信徒の希望により遺骨や遺品をお預かりし、収蔵している。顕彰法要は年に一度、開祖

忌に合わせ、物故者の遺徳を偲びその功績を顕彰するために行われるものである。

法要では、全ての収蔵棚の扉が開かれ、物故指導者のご遺族、法縁者をはじめ、宗由貴師家、本山役職員などが参列し、順次献香を行った。最後に大澤代表が、「先達の多くの遺訓や功績を後世に語り継ぎ、怠らず務めてまいりましょう」と挨拶を述べた。

なお、今回は物故指導者顕彰法要に先立ち、故・大屋昭夫道院長（世田谷道院）、故・大家正己道院長（石川大聖寺道院）の顕彰法要も執り行われた。

僧階取得への意識を高める

大阪平野小教区

新年度を迎え、桜の花も咲き春の訪れを感じる中、4月5日、大阪平野小教区研修会を大阪平野道院にて開催しました。

今回は大阪平野小教区（大阪平野・大阪南百済・八尾東道院）を中心に縁のある方々約20人が相集い、講師に佐々木正大阪府教区長をお招きし開催しました。

講義「聖句の主旨」では、今回



は学生拳士の参加が多い中、講師の経験を踏まえながら、聖句という難しい内容を分かりやすくお話しくださり、皆最後まで真剣に聞き入っていました。その後の易筋行では、構えの確認から技術に至るまでとても盛りだくさんの充実した内容で、参加者は皆目を輝かせて易筋行に取り組んでいました。今回、参加者の中で半数が僧階を持たない、または年齢的に持てない拳士が多かったのですが、参加者の多くが今回の講義を聞き、僧階について興味を抱き、資格を満たせばぜひ僧階を取得したいという声が多く上がり、とても充実した一日となりました。

（川添浩史）

法階昇格者

准範士

■2015年5月10日付

近藤 英樹(取手南道院)

新谷 成智(金沢東道院)

■2015年5月17日付

尾山 稔(東京東小岩道院)

横田 和典(高槻南道院)

山本 重光(熊本大津道院)

本山行事 7月 4日(土)～5日(日) 次世代指導者育成講習会

5日(日) 僧階補任講習(大導師・中導師)

17日(金)～19日(日) 道院長資格認定研修会①

26日(日) 帰山

8月 1日(土) 級拳士講習会①(東京)

僧階昇任者

権大導師

■2015年4月1日付

岡 賢一郎(沼津愛鷹道院)

北川 悟(近江八幡道院)

中導師

■2015年4月1日付

安原 明宏(小樽春香道院)

山内 智晴(上富良野道院)

鈴木 直子(仙台西道院)

秋山 俊之(東京昭島道院)

和栗 研一郎(藤沢東道院)

東浦 寿成(奈良宝来道院)

■2015年5月1日付

河村 勝則(行橋中部道院)

権中導師

■2015年4月1日付

山影 勝敏(札幌南道院)

戸村 郁美(札幌あかしや道院)

石塚 康大(つくばみなみ道院)

末廣 智彦(東京成瀬道院)

小久保 貴光(町田南道院)

吉田 雅恵(横浜戸塚道院)

澤井 健(横浜戸塚道院)

岡部 和也(神奈川大和道院)

中尾 明(逗子道院)

南雲 正明(逗子道院)

石野 学(逗子道院)

中坪 一世(逗子道院)

板橋 威(川崎西道院)

篠原 哲(東戸塚道院)

小峰 弘文(清水袖師道院)

石川 泰成(豊橋道院)

甲斐田 宗志(熱田道院)

山下 クミノ(大阪八尾南道院)

木村 恒一(山口西京道院)

北林 明(泉川道院)

丸山 恭(松山中央道院)

越智 武(松山城東道院)

宮脇 隆治(諫早西道院)

お布施

▷代々木上原道院 100,000円
▷大屋恵子(故大屋昭夫道院長夫人) 物故指導者顕彰法要

50,000円

▷福山東道院 道院長 瀧本保夫
設立40周年記念帰山 50,000円

▷三重箕曲道院 設立30周年記念
20,000円

▷二上山道院・奈良西の京道院

帰山記念 15,000円
▷村上一(名誉本山委員) 開祖
忌法要 10,000円

▷明石道院 道院長 今井明雄(名
誉本山委員) 開祖忌法要
10,000円

▷水澤文子(故水澤春夫道院長親
族) 物故指導者顕彰法要

10,000円

▷奥村良夫(故奥村正千代道院長
ご子息) 物故指導者顕彰法要
10,000円

▷蔵本朝子(故蔵本清道院長夫
人) 物故指導者顕彰法要
10,000円

▷山上万智子(故内山滋道院長親
族) 物故指導者顕彰法要

10,000円

▷備後神辺道院 道院長 木原康宏
設立10周年記念帰山 10,000円

▷行橋中部道院 道院長
河村勝則 5,000円

公認講習会

東京都教区 50,000円
福岡県教区 30,000円

新春法会御祝

東京都教区、京都向日町道院、
京都西道院、犬山北道院、大阪
伊吹道院、本部道院、喜田良延、
今城隆廣、山崎隆尉、篠原正、
庄野雅巳、石井宏明、倉田健治、
村上一、大西要、佐藤一司、岡
寛、加藤義秋、鎌田智、今井明
雄、小池孝忠、小池靖彦、小畑
哲雄、西山俊一郎、西村建夫、
川村芳男、中山文夫、田原正晴、
柏井伸一、牧野清、本田演昭、
木村弘史、ANAセールス株式会
社、ウツミ整形外科医院、四国
健康村、セコム株式会社、ツバ
メ工業株式会社、プリントネッ
トワーク株式会社、株式会社カ
メイ務商店、株式会社ビルド、
株式会社百十四銀行、株式会社
JTB 中国四国高松支店、株式会

社O.P.S.、株式会社STNet、株
式会社アイコー印刷、株式会社
オザキ、株式会社カナック・ビ
ジネス・ソリューション、株式
会社サンエイ、株式会社スター
ト、株式会社セント・レディス、
株式会社一鶴、株式会社花岡自
動車、株式会社牛田塗装、株式
会社広告通信社、株式会社香川
クリエイティブプロダクツ、株
式会社香川銀行、株式会社高松
三越、株式会社三好石材、株式
会社四電工中讃西営業所、株式
会社前川商店、株式会社日本旅
行高松支店、関西実業株式会社、
亀山石油株式会社、香川印刷株
式会社、高松信用金庫多度津支
店、今治造船株式会社、三井住
友海上火災保険株式会社高松西
支社、山陽放送株式会社、四国

旅客鉄道株式会社多度津駅、新
日本印刷株式会社、大一電気工
業株式会社、大和証券株式会社
高松支店、中讃ケーブルビジョ
ン株式会社、日本総合保険企画
株式会社、日本郵便株式会社、
日本郵便株式会社多度津郵便
局、富士建設株式会社、牟禮印
刷株式会社、名鉄観光サービス
株式会社、野村證券株式会社高
松支店、香川記章有限会社、富
士スポーツ工業有限会社、有限
会社華や商事、有限会社西山印
刷所、有限会社えびず、有限会
社光風社広告、有限会社社長尾
酒店、オークラホテル丸亀、チサ
ンイン丸亀善通寺、ペンション
でぐち荘、ホテルサンルート瀬
戸大橋、ホテルトヨタ、ロッジ
寿、坂出グランドホテル、獅々

友旅館、大西旅館、民宿ちぐさ、
民宿トキワ、民宿浦島屋、民宿
細川、お好み焼きよこた、お食
事処まんぶく食堂、買田果物店、
多度津タクシー、有限会社白光
舎、山崎生花店、社会福祉法人
多度津福祉会、小田浩司、神原
正、東洋防蝕工業有限会社、特
別養護老人ホーム桃陵苑、木谷
歯科医院、有限会社香川建築設
計事務所、七区自治会長、若山
詣子、岸本明輝、中村秀明、内
海昌浩、内海武彦、鷺見淳、吉
川伸子、市原弥恵子、平田祐子、
新井陽子、武内章臣、中数賀昭
子、萩原妙子、宮竹八千代、村
井智子、宮野義久、近藤典子、
小畑敬史、進藤昭次郎、村野巨
樹、多羅尾尚、徳善久人

2015年度講習会のお知らせ

道院幹部講習会(本山)

日 時：9月19日(土)～20日(日)
対 象：16歳以上かつ初段以上
(連盟会員も受講可)

特別講習会(本山)

日 時：10月3日(土)～4日(日)
対 象：16歳以上かつ初段以上
(連盟会員も受講可)

少年部指導講習会(本山)

日 時：11月7日(土)～8日(日)
対 象：16歳以上かつ初段以上
(連盟会員も受講可)

級拳士講習会(東京別院)

日 時：2015年8月1日(土)、
2016年2月6日(土)
対 象：16歳以上かつ6～1級
(連盟会員も受講可)

編集後記▶「互助と連帯」は金剛禅運動の旗印です。これは、「タテのつながりしかなかった日本の社会にヨコのつながりをつくりたい」「お互いにいざというとき、何かあったときに身体を張って力になり合え行動できるような人を育てたい」との開祖の思いによるものです。▶近年、他人との関わり合いをストレスと感じ孤立無援に陥る人が増えています。しかし、人が幸福に暮らすには「互助と連帯」が不可欠です。とりわけ、社会をよくする運動体としての金剛禅教団にはそれらが必須であることを、激動の時代を生きた開祖は確信されたのでしょう。確信は今、教区活動の充実という形で実を結んでいます。(ふ)

表紙▶河合 修 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。中拳士三段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>
2週ごとに更新される代表メッセージをはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅総本山少林寺 検索

あ・うん

vol. 41
2015 文月・葉月

2015年7月1日発行(奇数月1日発行)

発行人：大澤 隆

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：藤井省吾

企画・編集：金剛禅総本山少林寺東京別院

〒170-0004

東京都豊島区北大塚2-17-5

☎03-5961-1400

e-mail aun@shorinjikempo.or.jp

印刷・製本：(株)ブル・ドック

広報誌『あ・うん』追加発送について ◆◆◆◆◆

現在、広報誌『あ・うん』を1道院につき、門信徒10人以上の場合12部ずつ、9人以下の場合10部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供させていただいております。更に追加をご希望の方は本山宗務部にお申し出ください。(追加1部につき50円・送料別途要)

TEL.0877-33-1010

e-mail : fukyoka@shorinjikempo.or.jp

一期一笑



イラスト／大原由軌子

清水袖師道院 平井 富士雄 声をかけられる幸せ

2014(平成26)年12月12日金曜日、道院修練を伴清司副道院長に任せ、会社の忘年会に出席。翌日は山口武専へ出張のため、一次会で帰りました。私の家は世界遺産の三保松原の近くにありますが、遅くなるとタクシーで帰るしかありませんが、この日は時間が早かったため三保車庫行のバスに乗って帰りの途につきました。終点まで乗るため、最後から2番目の三保本町バス停を過ぎたときには、乗客は私一人になっていました。

すると、バスの運転手さんがぐるっと振り返りました。私は、乗客がまだいるのを確認したのだと思いました。が……突然、「平井先生、お疲れさまでした!」と運転手さんが言ってくれたのです。

びっくりしました。「誰ですか?」と尋ねると、「美波斗、美海斗の父です」。道院の双子の小学生のお父さんがバスの運転手さんだったのです。その後、ちよっと話が弾みました。あちこちで声をかけられる幸せに感動した出来事でした。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛
TEL.03-5961-1400 FAX.03-5961-1401 e-mail : aun@shorinjikempo.or.jp

Byakuren Ken, Tsubame gaeshi



宗門の行としての少林寺拳法

びやくれんけん つばめがえし
白蓮拳 燕返

じょうだんつき
上段突に対する防御からの段反撃。相手の内手首(寸脈)を内受すると、突きで外側に流れる。けいみやく
頸脈に隙が生まれるので、すかさず受手を反転させ、うけて
手刀で切り込む。しゅとう
受けから反撃が一動作に近い快速を目指す。その後の連反攻も一挙動作を目指す。節度も重要である。

撮影／近森千展 文／永安正樹 演武者／守者：富田雅志 大拳士五段 攻者：永安正樹 准範士六段



SHORINJI KEMPO
少林寺拳法